

第5号では、先月に実施した湯梨浜学園 SSH プログラム

についてご紹介いたします。



「キャリア・パスポート 第2弾」

国際ソロプチミスト様との共催で、中学生女子を対象に2回目の「理工系女子の育成プロジェクト」を実施しました。この度のプロジェクトでは、**鳥取県衛生環境研究所**を訪問し、施設見学、科学実験を行うなど多岐にわたる研修を行いました。

衛生化学研究室室長の木村氏には、衛生技師として勤務できる鳥取県内の機関の多さ、育児との両立のために整えられた制度（育児保育、ファミリーサポートセンター、学童保育）などを自身の半生を交えての説明を受けました。

実際のデータから、県内の**女性の活躍**や昇進の可能性が高いことがわかり、これから理系のキャリアを目指す生徒にとって明るい展望を描く機会となりました。



講演に続き、建物全体が環境に配慮したエコビルディングである衛生研究所に加え、隣接する**原子力環境センター**を見学し、施設の説明を受けました。電子顕微鏡やクロマトグラフ質量分析装置、環境放射能のモニタリングの方法や、放射線検出のために使われているゲルマニウム半導体検出器や放射線の量を調べるベータ線測定装置など調査研究に用いられる機器とその利用目的について詳しく学びました。

実習では、食用色素の分離実験を通して、**調査研究**に必要な考え方や実験手法などを学びました。使用する化学薬品の選定や**実験プロセス**によって、結果に与える影響が変わってくることや、**環境負荷**へも考慮して調査していることに驚きました。

生徒アンケートからも、身近にこのような充実した施設があり、理工系女子が大いに活躍していることが確かに伝わったという手ごたえが感じられるプロジェクトであったと思います。



「野生鳥獣害痕跡調査」

中学2年生がSSH事業「環境保全人材の育成プログラム」の一環として、鳥取市にある摩尼山にて野生鳥獣害痕跡調査を行いました。このプログラムでは、実践的な**環境保全に努める人材**として必要な資質を育むことを目的としています。中学1年生から段階的に取り扱う内容・スケールが大きくなっていく、本校が柱としているプログラムになります。

この度の調査では、海洋・森林など様々な環境のうち、今回は森林における鳥獣被害（特にシカ、イノシシ）の現状と課題について痕跡調査を実際に体験することで理解を深めました。

鳥獣痕跡調査とは、野生動物による被害の有無や被害動物の特定を目的として行われる調査です。爪痕やフン、樹皮剥ぎ跡など、動物の痕跡を通して、どの動物がどのように活動しているかを調べます。この調査により、どの鳥獣が被害をもたらしたかを判断し、その対策を立てることが可能です。野生動物の保護や管理に欠かせない手段であり、持続可能な自然環境を維持するための重要な一歩です。生徒たちにとっては、科学的な調査手法や分析能力を身につけるための実践的な学習機会です。



実際に動物の足跡・爪痕・フンなどの痕跡に触れて、生徒たちは自然環境の大切さや、野生動物との共存について大きな学びを得ました。**フィールドワーク**を通じて、自分の疑問や仮説を検証するプロセスを経験できたことは、科学的な思考力や探究心を深める助けになったことと思います。右写真はクマの爪痕です。



摩尼山はもともと僧侶が修行する山であり、その入り口にある摩尼寺では昼食、休憩の場所としてお世話になりました。昼食後には、和尚様の法話を拝聴しました。和尚様は、「今ある幸せは当たり前ではない」とおっしゃり、家族や友人、学校での経験に感謝する気持ちを持つことが大事だと教えてくださいました。ありがとうございました。



次号は、「環境保全人材の育成プログラム」を日本全体へとスケールアップした「高校2年生屋久島研修」について紹介する予定です。